

第60回全日本総合ハンドボール選手権大会  
 <戦評記録用紙>

\*会場 いしかわ総合スポーツセンター Aコート・Bコート

\*スコアー

湧永製薬	24	10	_____	13	21	トヨタ紡織九州
		14	_____	8		

\*見出し トヨタ必死のディフェンスを湧永一蹴

日本リーグ勢同士の対戦だが、体格は湧永製薬が一回り大きい。そのためトヨタ紡織九州は3-2-1ディフェンスで湧永製薬にプレッシャーを掛ける作戦に出た。最初は古家のカットインや坂本のサイドで得点を重ねた湧永が試合の主導権を握る。しかしトヨタはGK谷川が再三のピンチを好セーブでしのぐとともに、ディフェンスではトップの海道の献身的な動きにより湧永の攻撃を分断することに成功する。18分過ぎドリブルカットからの速攻に、たまらず手を出した湧永・東、そして今井が相次いで退場。海道や中島のカットイン、村上の速攻で逆転し、前半はトヨタが3点リードで終了した。

後半にはいると湧永のパワフルなカットインが決まり出す。東のカットインでトヨタ海道が退場。東が確実にペナルティースローを沈めた後、東のスカイプレーで差を縮める。この後トヨタ松野、湧永松村両GKの好守が続くが、新しい速攻で得たPTを東が確実に沈め、湧永が逆転に成功。その後も福田のカットインなどで湧永が差を広げるが、トヨタもディフェンスを4-2へとチェンジしペースを変える。26分過ぎ湧永・武藤がトヨタ海道を顔面を強打してしまい、痛恨の退場。しかしトヨタの淡泊なシュートで差を縮められない。その間に湧永・東に決められ万事休す。結局湧永が24-21で逃げ切った。